

本殿遷座祭

日付：上宮本殿の大規模な修理後にのみ実施

神社の本殿を修理または再建するときは、特定の儀式が行われます。この神聖な建物は、神が「住む」または顕現すると考えられる宝物である御神体が入っていることから、最大限の敬意を持って扱われます。本殿での工事の期間中に御神体は特別に準備された一時的に安置する場所に儀式的に移されます。これは、大きな音で神々を邪魔したり、その上の屋根に立ったりすることは不適切だと考えられているためです。

宇佐神宮での最も大きな移動の儀式は、上宮の三つの本殿の修繕を終えてご祭神三柱が帰る際に行われる儀式です。この儀式は本殿遷座祭（「神々を本殿に戻すお儀式」）と呼ばれ、勅使（天皇陛下の使者）が参加します。御神体を運ぶ神輿は、真夜中に御旅所を出て、遷座の儀式のために松明の光で上宮に戻ります。翌日、勅使は神々に供物を贈り、天皇陛下からのお祈りと演説を声に出して読みます。

本殿遷座祭は今では珍しい光景であり、本殿の修理の規模が十分に大きく、すべてのご祭神を移す必要があるときにのみ行われます。しかし、宇佐神宮が定められた年数ごとに神社の建物を儀式的に再建する伝統を実施していた頃は、もっと頻繁に行われていました。大きな神社はかつて、莫大な費用がかかるにも関わらず、神聖で永遠の性質を表す「純粹」で常に新しい外観を維持するために、境内の建物定期的に再建しました。その定期的な再建はまた、専門の神社建築職人が技術を磨き、次世代に引き継ぐことを可能にしました。

現在、三重県の伊勢神宮だけが、すべての主要な社殿の完全な儀式的再建を行っており、20 年ごとに実施しています。宇佐神宮が 9 世紀から 14 世紀にかけて儀式的な再建を行っていたときは、33 年に 1 回実施されていました。宇佐神宮の影響力が衰え、国が激動の内戦に突入したため、費用のかかるこの慣行を中止しなければならず、それ以来、必要な場合にのみ修理が実行されます。

前回の本殿遷座祭は 2015 年に行われました。